ＣＳＯラーニング制度　修了レポート

氏名　　：勝倉良介
派遣先ＣＳＯ名：環境エネルギー政策研究所（ISEP）
大学名・学年　：一橋大学　国際・公共政策大学院　修士１年

１．「実社会との繋がりを感じて」

私は現在、大学院に所属している。大学院の種別は「専門職大学院」であり、学術と実践の繋がりを重視した内容となっている。しかしながら大学院である以上、机に向かう学問が中心であり、実践との繋がりを感じる機会が少なかった。そのような状況で、私は「実社会との繋がりを感じながら学問に励みたい」と感じ、インターンに応募した。また、これまで長期のインターンに参加したことはなく、擬似的な「仕事」の中で自分に何ができて何ができないのかを知りたかった。

結論から述べると、このインターンに大変満足している。

私が中心的に関わった業務は「英文白書の翻訳」と「条例策定への調査補助」である。これまでの学生生活で、複数人で協力して文章を書き上げること、調べものなどは経験していた。しかし、これまではその目的がゼミの論文であったり、自分の研究であったりと、外とのつながりのないものだった。その中で経験したこれらの業務は、内容は同じでもその中で感じることが大きく異なっていた。私の関わった白書は web 上で世界中に発信され、冊子版は実際に販売される。この白書は多くの職業人や研究者に読まれていくのである。そうして最終的には政策決定や論文執筆等に用いられる可能性がある。つまり、「ただの翻訳」であっても、私の訳した文章が社会を微力でも動かす一因となったことに大きな感動を覚えた。また、条例策定の調査補助においては、より直接的に社会を動かすという思いを感じた。調査の内容自体は普段の学習で行うものと同じような内容であった。しかし、私が調べた内容が実際の政策作りの一部となっていくことは重責であると共に、今まで感じたことのないやりがいが存在した。尚、その他には「ISEP が行うイベントの補助」や「日々の業務」にも取り組んだ。

ISEP は日本の再生可能エネルギーを前進させる動きの第一線に立つ組織である。従って、電話とりのようななんでもない業務であっても、そこでの自分の働きが日本の再生可能エネルギーを前進させる僅かな要素であると感じることができた。私は大学院でも再生可能エネルギー政策に関して学んでいるが、日々の学習の中でこういった思いを感じることは先ず無い。「象牙の塔」と揶揄されることの多い大学院だが、インターンに参加したおかげで自分の働きが社会を動かしていくという得がたい経験ができた。

また、その業務の中で、常に「自分にしかできないことは何であろうか」を考え続けていた。翻訳業務や調査業務で、丁寧に仕事を行うだけではなく、何かしらの工夫を常にしようと心がけていた。そうした中で「自分で考えて動いてくれている」という言葉をいただけた時は本当にうれしく感じた。日々の仕事にこういった意識をもって当たることは、今後社会に出たとき非常に重要と考えている。

以上のように、実際の社会の動きと自分をリンクさせたいと考えていた私にとって、インターンに参加することでそれを実現した。また、常に生の動きに触れていることで、大学院での研究への大きなモチベーションともなった。机上での理論だけではなく、再生可能エネルギーの最前線では何が話されているのかなどを知ることができ、大変有意義であった。そういった意味でも、ISEP でのインターン経験は大学院での研究生活をより豊かなものした。私は大学院では得ることのできない「実際とのつながり」を求めてインターンに参加したが、その思いは無事達成されたと考えている。

２．「日々、問題意識を持ち続け、以って再生可能エネルギーの普及に貢献する」

私はこのインターン期間を通じて、再生可能エネルギーの持つ大きな可能性に触れてきた。従って、人生を通じてこのテーマに関わりたいと考えている。これは仕事を通じてという方法以外にも、一人の市民として何ができるか、という面での取り組みもあり、「再生可能エネルギーの普及にむけ、自分には何ができるか」を常に意識していきたい。そのためにも、日々問題意識を持ち続けたいと考えている。再生可能エネルギーの普及に向けて何が障壁となっているのか、最新の動きはどうなっているのか、ということに対し、思考停止をせずに考え続けていきたい。「再生可能エネルギーでは市民が主役になる」というのは ISEP で働く中で学んだことの一つである。これまでは遠い存在だったエネルギー政策が、これからはわれわれ一人ひとりが実際に考え、動いていく時代になるのである。従って、ISEP でインターンをした私はその経験を活かしながら周りの人間を巻き込み、率先して市民による再生可能エネルギー普及の動きを進めていくべきと考えている。また、その中で常に問題意識を持ち続け、再生可能エネルギー普及の一翼を担っていきたい。